

第45号

緑の相談所だより

春号 1997. 4. 1発行

編集：旭川市緑の相談所

鉢物の植え替えと庭木の定植・剪定 花物、雑木、松柏など小盆栽の仕立て方と手入れ

日時 4月13日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

日時 4月27日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

観葉植物とラン類の植え替え実技指導

日時 5月11日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

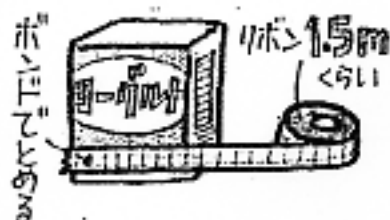
家庭菜園を楽しもう

日時 5月25日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野元雄

[いずれも定員は50名 参加料は無料]

ミニクラフト



①お気に入りのリボンを用意し、巻き始めのところだけボンドでとめます。



②ぐるぐるピンと引っ張りながら巻いて行きましょう。



③巻き終わったらリボンをカットし、ボンドでとめます。



コチヨウランは

どのように管理するの？

A 東南アジア原産のランの仲間なので、高温多湿を好みます。寒さに弱く最低15℃ほどの温度で元気に育ちます。

湿度も60~80%ほど必要ですから、乾燥しているときは霧を吹くとよいでしょう。日光はあまり必要としません。



霧とそよ風が大好き

せっかく着いたつぼみが開かずに落ちてしまうことがあります。ほとんどは温度や湿度の不足が原因です。また、強い直射日光を当てると葉がやけてしまうので遮光する必要があります。夏は70~80%、冬でも30%は遮光しましょう。

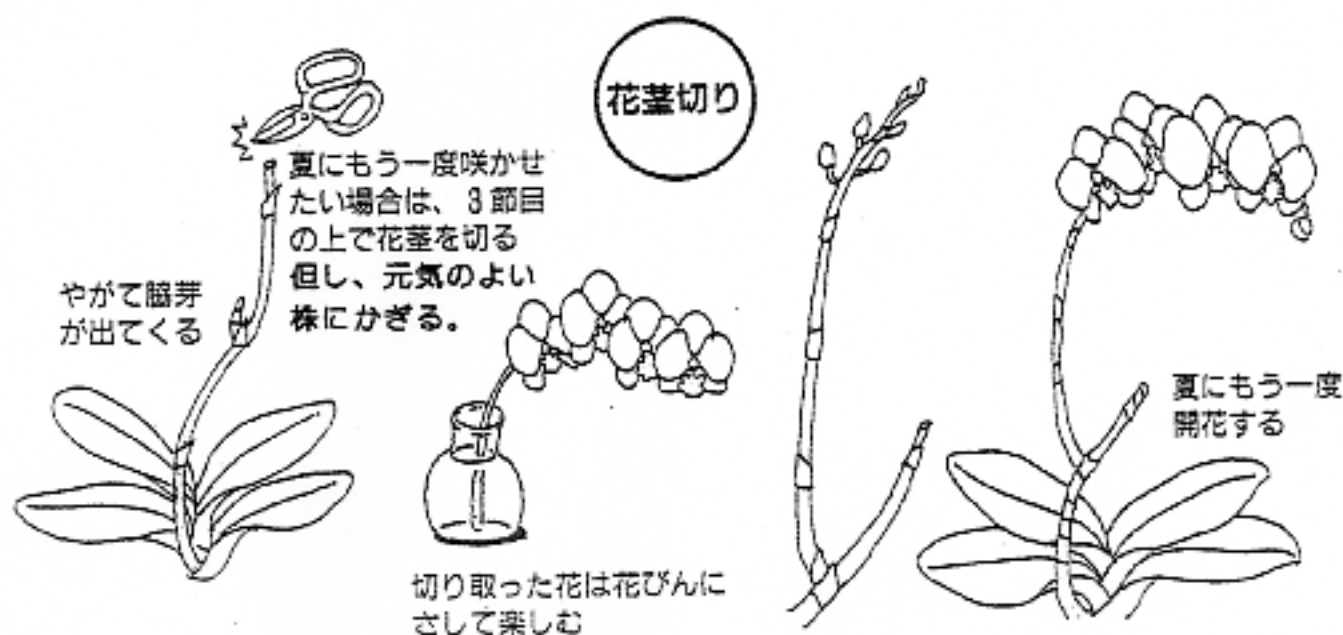
水やりは根元の水ゴケが乾かないように注意して乾いたら与えます。

コチヨウランに限らず洋ランは全般に空気を好む植物なので、そよ風程度の空気の流れが常にあるようにしてください。風通しが悪くなると、葉が腐って溶ける軟腐病や花に黒い斑点のでるボトリチス病などの病気やカイガラムシなどの害虫が発生しやすくなります。病気の予防にはオーソサイドやオキシボルドー、ベンレートなどの殺菌剤を霧吹きなどでまきます。

カイガラムシは歯ブラシや指で葉に傷をつけないように取りのぞき、殺虫剤を散布します。

肥料はやや薄めの液肥（2000倍程度）を月1~2回与えます。

コチヨウランは常に生長している植物なので、冬でも20℃ほどの温度が保たれている場合は肥料を与えたほうがよいでしょう。



4月 5月は防除の始まり

4月に入り雪が解け、土が暖まると花や木々も一斉に伸びはじめますが同じように長い冬ごもりを終えた虫も病菌も活動の季節に入ります。又雑草も花以上に元気に伸びはじめます。5月になり気温も上昇し、開花、青葉の時期になりますと虫は卵を産み始め、病菌も増殖開始です。

手入れの作業も剪定、施肥、耕起、植え替え等色々忙しい季節ですが、目には見えないけれど最も効果のある作業はこの時期の病害虫防除です。

害虫は冬の間卵やサナギの形で落葉や枯葉の下、木のヒダや割れ目等に潜んでいて暖かい条件が揃うと動き始め、花や木の葉等に取りつき害を与えます。この時期の防除は虫の数も少なく、特に幼虫期は体がやわらかく薬がよく効く時なので一網打尽の効果が期待でき、後の作業が楽になり、又減農薬にもつながります。病気の場合も同じことです。又雑草も早いうちであれば手で根から引き抜きやすく、種子のこぼれる前であればなお効果的です。

雪解け直後

土が乾いたら地面に落ちた枯葉、枯れ枝、果樹であれば落ちた果実、枯草、その他前年の残渣は丁寧に集め燃やすか、土に埋めます。

(前年の秋遅くが正解ですが、春先でも効果はあります)

果 樹 (サクランボ、スモモ等)

シンクイムシ、コスカシバ等暖かくなりますとサナギから成虫になり飛び始め、新芽などに卵を生みだします。このタイミングはなかなかつかめませんので、目安として新芽の出始めから開花前(蕾の時)、開花後にかけて(開花中は避ける)10日に1回、2~3回殺虫剤を丁寧に散布します。アブラムシ等も繁殖を始めますので同時に駆除できます。

庭木等 (ツツジ、オンコ等)

カイガラムシ、ガンバウムシ、アブラムシ等の活動が活発になります。カイガラムシは春になると堅い殻から抜け出し卵を生み、これが幼虫になる頃が防除の適期です。目安は幹や葉が油膜をはったように光り始めたら注意信号。1週間おき2~3回

こ 注 意

越冬中の害虫(特にカイガラムシ)や病菌の駆除には石灰硫黄合剤が有効ですが、この農薬は植物の休眠中に使用するもので、新芽が吹き出す時まで残っているようであれば、その植物は枯れてしまいます。

石灰硫黄合剤は秋から冬に使う農薬です。

ミニやマキシが出てきたからといって別に女性のスカートについて講釈を述べるつもりではありません。その証拠にオプテマムという何やら聞き慣れないのがついていきますでしょう。実はミニはミニマム (minimum)、マキシはマキシマム (maximum)、そしてオプテマム (optimum) なのです。ミニマムはこれ以上短くなつては、いや短くとは限りません。少なくとも、低くとか、つまり足りない方の限度額、もうそれ以下はあかん！ と言うわけにして、それにしても女性のミニに限度額を定めるのは野暮というものですな。ご本人もその気なのですから、こちらとしても制限撤廃。したがってスカートにミニというものは不用なのです。お判り頂けますか？ もしかしたらいい世の中がやってくるかも知れませんが、何分にも規制緩和の世の中ですからな。一方、極限まで長くて、舗装道路の雨水を吸い取って歩くのがマキシ、足首は愚かつま先さえもが隠れてしまう無粋さ。でも良くしたもので十数個もボタンをつけたのや後ろの辺りが切れ込んでいるのがありますな、その間から……。いや、マキシにしてもそう言う事ではないのでして、つまりマキシマム、最高限度額ということでありませう。これ以上は放映禁止、ドクターストップ、もうそれ以上はあかん！ これがマキシマムであります。

では、オプテマムは？ 中庸、平均、ちょうどいい。私のような昭和一桁には心臓の負担もなく誠に安心して接することのできる長さ、いや程度でございまして、人生もオプテマムでありたいものですな。それがどうした！ ですって？

そうなんですよ。実はこの M. M. O. が植物を育てる者にとって、もお！ とても大切な事なのはお気づきと思ひますがいかがでしょう。

生育最低温度 (mini. T.) と生育最高温度 (maxi. T.) の間で植物は育っています。この温度はここまでの温度なら生きていられるという温度とは違います。生育を続けることのできる温度範囲ということですから。勿論限度に近づくと生育は衰えてきますから、それぞれ3℃位の上下が良いということになり、その温度が最適温度 (opt. T.) ということになります。例えば、シンビジュームは8℃～28℃が理想的な栽培温度です、と本に書いてあります。この温度範囲でシンビジュームは生育するのですが、12℃～25℃の範囲で、日中の温度と夜間温度が10℃くらいあれば理想的ということになります。～のついた温度範囲を見ると、左側が冬の温度、右側が夏の温度と思いがちですがそれは誤りです。生育を度外視すれば、実際には0℃になってもシンビジュームは死にません。乾かし気味に管理すればマイナスでも死にませんが、これは体内に蓄積された栄養分 (細胞液の濃度) に大きく左右されますので、同じ種類の植物でも差が出てくることになります。そこで

安全方程式 生育最適温度 = (生育最低温度 + 5℃) ~ (生育最高温度 - 3℃)

日較差 (日中最高温度 - 夜間最低温度) を10℃内外に

実はこのミニとマキシのそとがわに臨界温度というものがありまして、もうあかん！ それ限度だ！ といいいながらもその上、下があるというのがなんとも意味のある事にして。この温度は文字どおり植物の死を意味します。その幅はミニよりマキシの方が狭く、おおよその植物は42℃～50℃の間にありますが、空気中の湿度、風、体内の水分条件によって変わります。ミニの方は植物の種類により大きく異なり、2℃～50℃の範囲にまたがります。また同じ種類の植物でも空気の乾燥状態や風の強さ、植物体に蓄積された栄養条件、生育中か休眠中かによってかなりの差があります。この種類は**℃までは大丈夫ですよ、という場合の多くはこの臨界温度に近いところを指している場合が多いようです。「この間うちの玄関マイナス4度にもなったのよ。クンシランがしばれたかと思ったら平気なのよ。強いよね、クンシランて。」では私の所も・・・なんて気はくれぐれも起こさないように。そういうこともあるのです、植物の世界には。